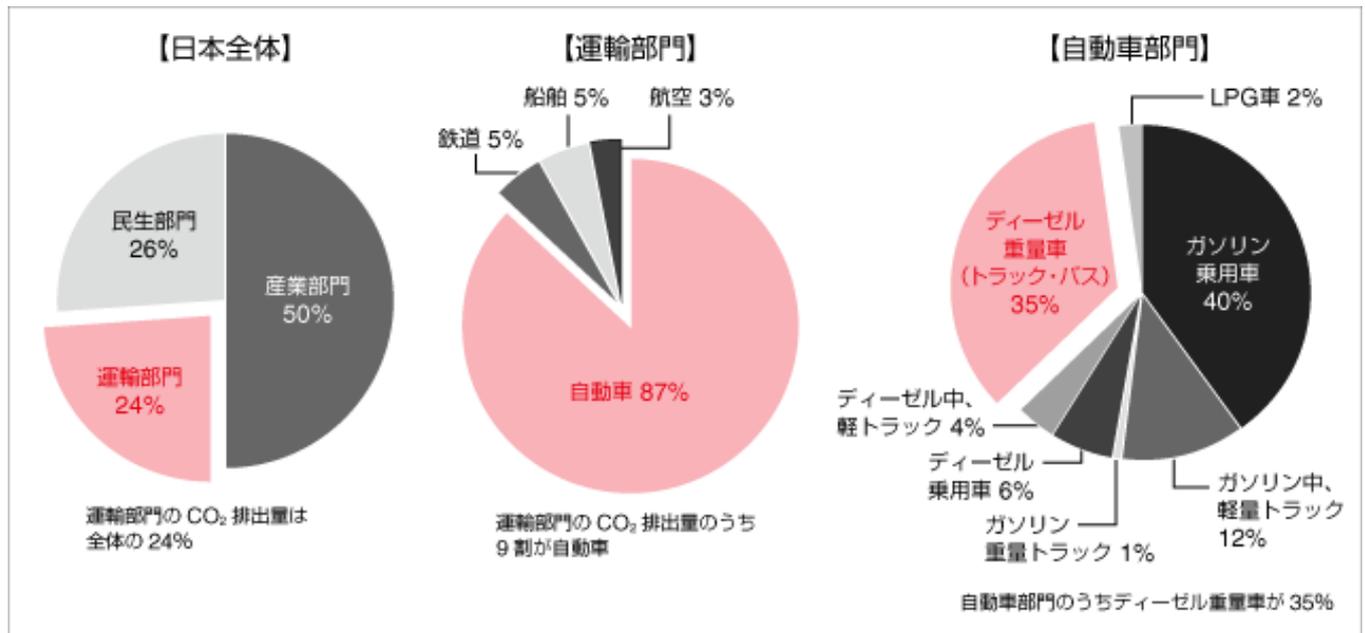


環境にやさしい製品と人にやさしい製品

環境にやさしい省エネツール・車両システム

日本全体でのCO₂排出量のうち、運輸部門が占める割合は24%であり、そのうちのほぼ9割が自動車から排出されるCO₂です。そのため、自動車が排出するCO₂を削減することは大きな課題であり、なかでも自動車全体の45%を占めるディーゼル車が担う役割は大きいと考えられます。

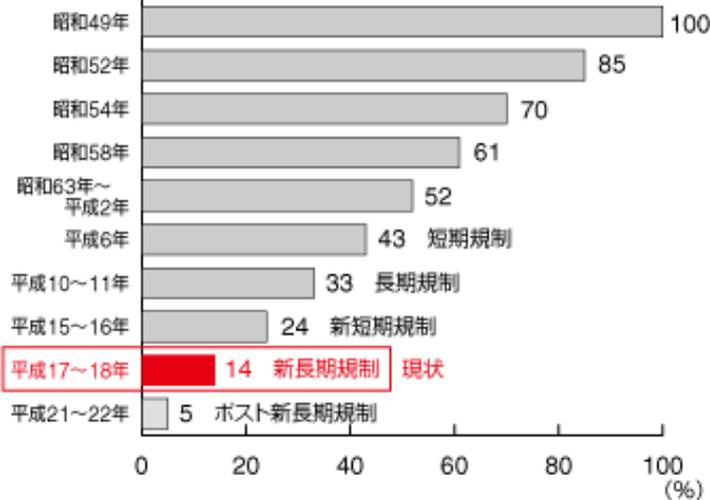


【当社調べ】

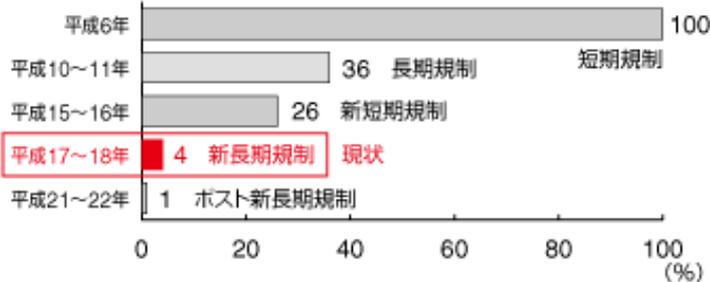
ディーゼルエンジンは熱効率がよく、ガソリンエンジンなど他の内燃機関に比べて低燃費でCO₂排出量が少ないため、地球温暖化対策の切り札といわれています。しかし、その普及には年々厳しくなるNO_x、PMなどの排出ガス規制との戦いがあります。

【ディーゼル重量車排ガス規制強化の推移】

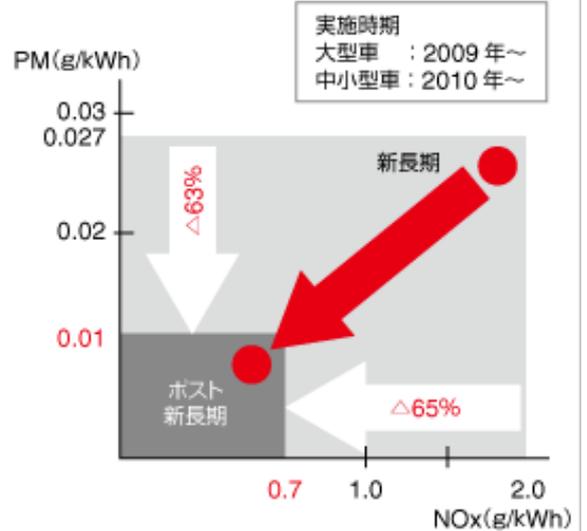
NOx



PM



【ポスト新長期規制の内容】



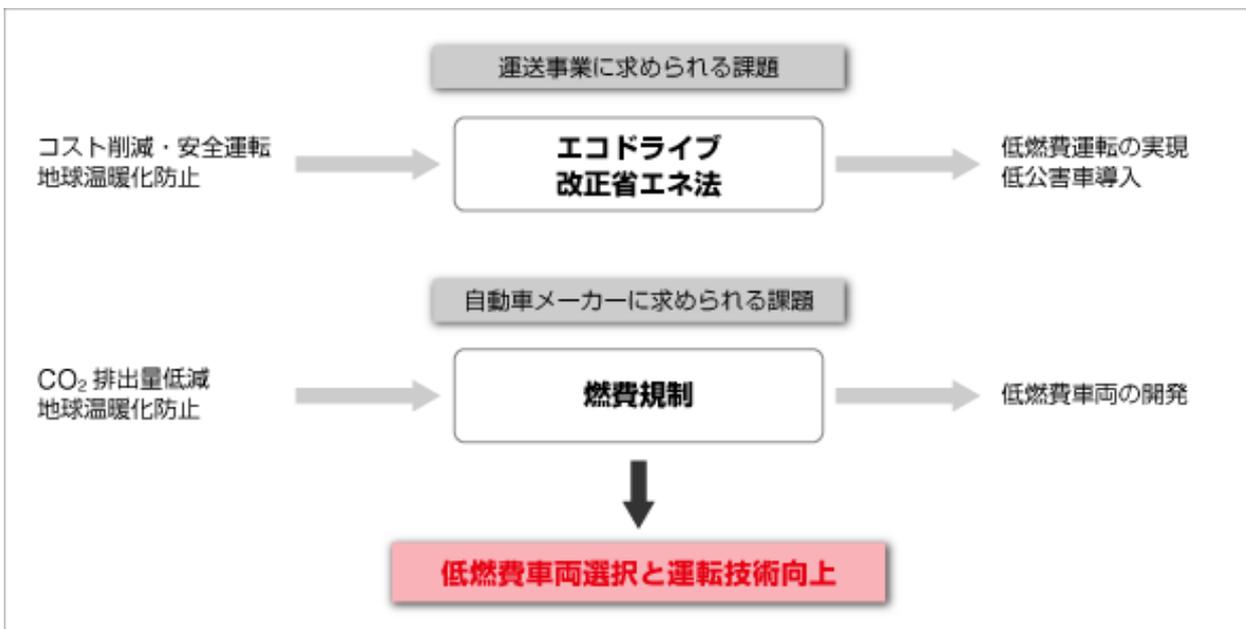
【当社調べ】

運送業を営むお客様にとって、排ガス規制などの環境保全対策はもちろんのこと、燃費向上や効率的な運搬でのコスト削減、安全な運行は常に課題となる重要な問題です。

社会の環境意識が高まる中で、お客様は、ハイブリッド車などの低公害車や代替燃料車を導入し省エネ運転を実践することで、環境負荷低減に日々努めています。しかし近年の燃料費高騰の影響もあり、低公害車導入を推進したいという思いが強い一方、新しい車両を導入するにはコストがかかるというジレンマを抱えています。

日野自動車は、地球温暖化抑制、省エネルギーの推進のために、さまざまな技術でお客様の課題と向き合っています。環境保全に配慮した、ディーゼルエンジン、ハイブリッド技術などハードの技術と、誰が運転しても省エネ運転になるようなソフトの技術で常にお客様の期待に応えていきたいと考えています。

■トラック運送をとりまく課題



日野自動車では、CO2排出量の削減と、お客様のコスト削減に貢献する7つの環境にやさしい省エネツール・車両システムをご提案しています。

お客様の省燃費。日野が、ぴったりの提案をいたします。

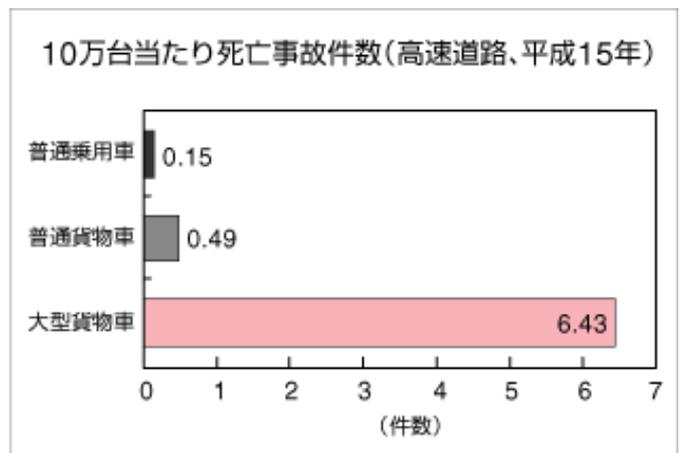
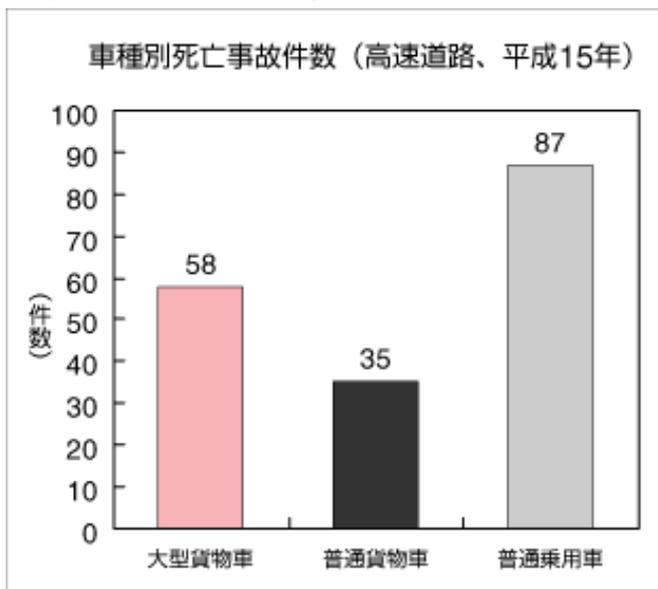
1	運行全体の省エネ化	ひのこんばす
2	省エネ運転の徹底	日野ドライブマスター PRO
3	低コストで省エネツール導入	日野ドライブマスター
4	データ管理で省エネ運行	デジタルタコグラフ
5	省エネ車両で社会に貢献	ハイブリッド・ラインナップ
6	運転操作の燃料ロス低減	Pro Shift (プロシフト)
7	休憩・仮眠中の省エネ	外部電源式 アイドルストップ冷暖房装置

品名をクリックすると詳細情報がご覧いただけます。

ドライバーにやさしい安全なシステム

トラックやバスなどを運行する運送事業を営むお客様にとって、安全な運行は何よりも、重要視される問題です。トラック、バスを運転をするドライバーは長時間、長距離を運転することが多く、運転頻度も高いため、ドライバーの安全を守り、事故を未然に防止することが求められています。

■高速道路での大型トラックによる死亡事故



【出典：国土交通省自動車交通局 平成17年度 車両安全対策の現状より】

日野自動車では、事故を防止するための安全機能を高めたシステム、「プリクラッシュセーフティ」をトヨタ自動車と共同で開発し、世界で初めて商用車用の追突被害軽減のブレーキシステムを商品化しました。この商品は大型トラック用追突被害軽減ブレーキシステムとともに、ドライバーの顔の向きや目の開閉状態の検知機能を追加して安全性をさらに高めたものです。

日野自動車では「安全フロントランナー」として、今後もこのような先進的な技術の開発と商品化・普及を推進することなどを通じて、モビリティ社会の究極の願いである「交通事故死傷者低減」を目指します。



大型トラック用 追突被害軽減ブレーキシステム 「プリクラッシュセーフティ」に “ドライバーモニター”を追加して発売

日野自動車は、大型トラック用追突被害軽減ブレーキシステム「プリクラッシュセーフティ※1」に、ドライバーの顔の向きや眼の開閉状態の検知機能を追加して安全性をさらに高めた「ドライバーモニター付プリクラッシュセーフティ」を「日野プロフィア」シリーズに設定し発売しました。

日野は、世界初※2の大型トラック用 追突被害軽減ブレーキシステム「プリクラッシュセーフティ」を装備した「日野プロフィア」を2006年2月より発売しております。

今回装備したドライバーモニターは、進路前方の停止車両等の障害物を検知すると、新たに搭載した車載カメラによってドライバーの顔の向きや眼の開き具合を測定し、コンピューターが“危険”と判断した場合には、従来のプリクラッシュセーフティが作動する前段階で警報音と警報ブレーキで警告します。

さらにドライバーによるブレーキ操作が無く“追突の可能性が高い”と判断した場合には、従来と同様にコンピューター制御により強力なブレーキが作動し追突時の被害を軽減する、先進の安全システムです。

※1:トヨタ自動車(株)と共同で開発。

※2:商用車用の追突被害軽減ブレーキシステムの商品化は世界初。



**ドライバーの顔向き、眼の開閉状態の認識機能をプリクラッシュセーフティにプラス。
ドライバーモニター付プリクラッシュセーフティ【追突被害軽減ブレーキシステム】**

ミリ波レーダーが先行車などの距離をつねに認識。また、ドライバーモニターカメラが、ドライバーの顔向きや眼の開き具合を昼夜を問わず認識します。追突の可能性があり、なおかつドライバーが正面を向いていない、もしくは眼を閉じている状態が続いている場合は早めにドライバーモニターの警報音により警告。そして、ブレーキが作動します。さらに、危険が回避されない場合は強いブレーキをかけ、また、追突が避けられないとコンピューターが判断した場合、より強力なブレーキが作動し、追突被害を軽減します。



ドライバーモニターカメラと測定範囲

ミリ波レーダー発射部

■日野自動車の安全への取り組み

日野は、早くから国土交通省のASVプロジェクトに参画し※3、特に高速道路における事故を防止するため安全機能を中心に商品化を進めてきました※4。

「日野プロフィア」に装備している「プリクラッシュセーフティ」は、国土交通省が被害軽減効果の拡大を図り2005年11月に実施した「前方障害物衝突軽減制動装置の技術指針」の改正を受け、日野が商用車用システムとして開発を進め、国土交通省の認可を取得して2006年に世界に先駆け商品化を実現したものです。

日野は「安全フロントランナー」として、モビリティ社会の究極の願いである「交通事故死傷者低減」を目指して、今後も先進的セーフティテクノロジーの開発と商品化・普及を推進してまいります。

※3: 国土交通省 第2期ASV (Advanced Safety Vehicle) プロジェクト【1996～2000年度】から参画。

※4: 車間距離警報機能「セーフティアイ」を1992年に商品化、98年には性能を向上し「ニューセーフティアイ」として商品化。2003年には「車線逸脱警報装置」を商品化するなど、安全機能の充実を推進。

●ドライバーモニター付プリクラッシュセーフティの作動イメージ

